

27年度・学校評価報告書

学校名 深谷市立大寄小学校

校長名 宇野 澄 男 印

1 **学校評価のねらい** (学校としての受け止め)

本校の教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、地域に根ざした信頼される学校づくりを進める。

2 **評価の方法** (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
- (2) 学校関係者(学校評議員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
- (3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
- (4) 全児童から学校生活・家庭生活について年2回、自己評価する。

3 **評価の結果**

(1) 主な指標の変化

- 教職員の評価では、「確かな学力の定着」がどの項目も1回目より高い評価であり学校研究課題への取組や一人一研究授業などの成果だと思われる。
- 学校評議員の評価は、教職員の指導が行き届いている等高い評価であった。
- 保護者の評価では、全25項目中16項目で90%以上の評価を得ている。特に「職員の協力体制」「学校からの情報発信」は前年度より高い評価が得られた。意見として、登下校中など地域内でのあいさつが今ひとつであるとの声があった。
- 児童への調査では、「学校の勉強が楽しい」が91.8%、「クラスのみんなが協力し合っている」が93.0%、「クラスに困ったときに助けてくれる人がいる」が95.9%と評価しているなど調査8項目中7項目が前期の調査より増えている。

(2) 目標の実現状況(指標との関連)

学校教育目標の具現化に向け、本校で取り組んでいる教育活動や学校運営は概ね高い評価を得られており、学習にも前向きに取り組む、児童も楽しい学校生活を送っている。

学力について、また、全国学力状況調査や県学力状況調査においても市の平均を上回っており、大寄小版3つの達成目標・効果検証の過去問題を活用した校内調査でも、全体の達成率が98%であり、指導の成果が見られる。

体力では、県平均を上回った項目は96項目中76項目あった。投力に課題がある。

規律では、あいさつや学習規律は、高い達成率であるが、靴そろえ、ていねいな言葉遣いは、達成率が低調であった。しかし、これらの生活規律・生活習慣について、学校と家庭では達成率に差異があり、これからの課題である。

4 次年度に向けての展望

- 「学校が楽しい」児童を95%（今年度91.8%）の達成を目標とする。そのために、地域や児童の実態を把握し、来年度全ての計画が前年度の踏襲にならず、児童が成就感を味わえるよう進めていく。
- 2年生の児童アンケートの評価が1回目より向上したが、他学年と比較して低調である。行事等で一人一役活躍の場を与えるなど具体的なめあてを設定させ、学校生活をより充実させていく。
- 児童の学力向上に対して、学校研究課題（言語活動の充実）の取組やB問題の活用、大寄版3つの達成目標の取組の継続等職員研修の充実を図っていく。
- その他、児童の生きる力の育成に向け、地域や保護者の意見を踏まえながら学校評価で課題となっている事項を改善し評価を高められるよう、学校運営並びに教育活動の推進を図っていく。